

令和8年度 第2回

学校運営協議会

日時：令和8年7月30日（水） 14：00～16：00

会場：花川小学校 2階 会議室



< 次第 >

- 1 開会の言葉
- 2 会長挨拶
- 3 校長挨拶
- 4 議長の選出
- 5 前回会議録の確認
- 6 熟議

テーマ『「働き方改革」～コミュニティスクールでできること』

- ・概要説明「あかるく・いきいき・みりよくある学校創造プラン」
- ・熟議（3グループに分かれて）

「働きがいと働きやすさを感じる学校づくり」

Aグループ・・・会議室

Bグループ・・・3年教室

Cグループ・・・2年教室

- ・各グループで話し合われたことの発表（会議室へ再集合）

- 7 連絡事項
- 8 閉会の言葉

今後の主な学校行事予定

9月18日（金）	参観会 家庭教育講座
10月 2日（金）	グラウンド整備 ※予備日：16日（金）
10月24日（土）	幼小合同運動会
11月 6日（金）	第3回学校運営協議会
12月 4日（金）	夢いっぱい発表会
2月17日（水）	参観会
2月19日（金）	第4回学校運営協議会

浜松市立花川小学校

令和8年度 第1回 花川小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年5月18日（月） 14時00分から16時00分まで
- 2 開催場所 花川小学校 2F 会議室
- 3 出席委員 佐々木 豊、武田 弘秋、佐々木 聰、田中 朋子、高倉 絹子、
和田 秀雄、高倉 毅文、松下 悠里、北村 智子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 新田 浩一（花川町自治会長）、岡埜谷 幸孝（西丘町自治会長）、
鈴木 克隆（北部協働センター）
- 6 学 校 二橋 久美子（校長）、中村 敦（教頭）、伊代田 和隆（教務）、
中村 好明（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 中村 好明
- 9 会長の選出及び副会長の指名

司会から、会長の選出について委員に意見を求めたところ、佐々木聰委員から佐々木豊委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、その後、会長に選出された佐々木豊委員から、武田委員を副会長に指名する旨の報告があった。

10 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、佐々木聰委員から会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）学校運営に関する基本的な方針の確認について
- （2）いじめ防止等のための基本方針について
- （3）学校支援活動計画について
- （4）「夢育やらまいか事業に対する意見書」について

12 会議記録

司会の中村（教頭）から、委員総数9人全員の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営に関する基本的な方針の確認について

議長の指示により、二橋（校長）から、別紙資料に基づき学校運営に関する基本的な方針の確認について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

- ・ スライドはイメージが湧き、大変分かりやすかった。このスライドはだれのために作ったのか。（佐々木聰委員）
- ・ 前の校長が保護者用にAIを使って作った。それをこの会議用に修正した。（二橋（校長））
- ・ 自分も小規模校で育った。良かったことはその他1名にならなかったこと。必ず自分の意見を言わなければいけない。これからの人たちには、自分の意見を言う、他人の意見も聞

くことができるようになってくれるといい。(佐々木豊委員)

- ・ スライドは、保護者会の時にも見せていただいたが、保護者にとっても分かりやすかった。(北村委員)
- ・ 家では与えてあげられないものを、小学校で与えられてもらっていると思う。(松下委員)
- ・ 子供がこの小学校の出身である。自分から進んでやらない子だったが、小学校ではやらなければならなかったので、本人は自信がついた。(高倉絹子委員)
- ・ 小規模校の良さを取り入れて欲しい。(和田委員)
- ・ 地域の活動や、ボランティアで学校に来てくれたおじいさんおばあさんに声を掛けられた経験が、子供にとってはうれしいことである。その逆に、声を掛けられた子供が声を掛けてくれるとおじいさんやおばあさんはもっとうれしい。両方育って欲しい。(佐々木豊委員)
- ・ 子供は、中学校へ行って大規模校の経験をしている。少しは苦勞をしているが、それを乗り越えようとしている。(田中委員)
- ・ 子供には心が強くなって欲しい。100%うまくいくことはないので、失敗したことを次に生かしていけるような子供になって欲しい。(高倉毅文委員)
- ・ 今年の中学校の入学式に出席した。197名の代表として花川小の卒業生がスピーチをしていた。自信を持っていけばいいと思う。(岡埜谷(西丘町自治会長))
- ・ いろいろな会合で、いじめをなくそうと言われるが、いじめの定義がよく分からないところがある。(新田(花川町自治会長))
- ・ グランドデザインを子供たちに伝えているか。(岡埜谷(西丘町自治会長))
- ・ 学校の行事等で、その行事にあったものをピックアップして指導している。(二橋(校長))

(2) いじめ防止等のための基本方針について

議長の指示により、中村(教頭)から、別紙資料に基づきいじめ防止等のための基本方針について説明があり、委員から、以下の発言があった。

- ・ パワハラやセクハラがよく言われた時、会社などでは、会話がなくなった。業務連絡しかなくなった。人と生活していればいやなことがあるのは当たり前で、それをうまく流せる体力をつけさせていきたい。(佐々木豊委員)
- ・ 大人から隠してしまういじめを見て欲しい。(武田委員)
- ・ いじめは難しい問題ではあるが、学校任せにしないことが大切ではないか。(北村委員)
- ・ 子供たちの中での言葉遣いは、親はびっくりするが、子供たちにとっては当たり前のことであったりする。(松下委員)
- ・ 言葉遣いは、親がラインを引いて、見ていくことが大切である。(佐々木豊委員)
- ・ 孫が友達ともめたことがあったが、先生が対応してくれた。この学校は先生の存在が近いのが良かった。(高倉毅文委員)
- ・ いろいろなトラブルはあると思うが、それを自力で解決できる力をつけて欲しい。(田中委員)
- ・ 得手不得手、好き嫌いがあったりすることでいじめに発展していくこともある。(武田委員)

- ・ 昔聞いた話で、子供が判断に迷った時、お母さんに話ができるかで判断しなさいと言われた。(佐々木豊委員)
- ・ 目に見えないいじめをしっかりと見て行って欲しい。(岡埜谷(西丘町自治会長))
- ・ 忍耐力は大切だと思う。グループエンカウンター、レジリエンスとはなにか。(鈴木(北部協働センター))
- ・ レジリエンスは、困難をしなやかに乗り越え回復する力である。自分のよい所に気付かせる。エンカウンターは、いろいろな仲間との人間関係作りである。(伊代田(教務))

(3) 学校支援活動計画について

司会の指示により、佐々木聡委員から、別紙資料に基づき学校支援活動計画について説明があり、目的・内容共に理解した。

(4) 「夢育やらまいか事業に対する意見書」について

司会の指示により、中村(教頭)から、別紙資料に基づき「夢育やらまいか事業に対する意見書」について説明があり、目的・内容共に理解した。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和8年7月30日(木)午後2時から2階会議室で開催する旨の報告があった。

浜松市教職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

概要版

～あかるく・いきいき・みりよくある 学校創造プラン～

令和8年3月策定

計画の目的

「価値ある学校」の創造

教育の質の向上

教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの充実
教職員が心身ともに健康的に教育活動に従事

指標・目標

- ・年次休暇年間取得日数 15日
- ・時間外月45時間超教職員 0人
- ・時間外年360時間超教職員 0人
- ・総合健康リスク 80未満
- ・高ストレス者の割合 5%未満
- ・ワークエンゲージメントの指標* 5Pt以上



3つの柱に基づく56の取組

I 教職員が働きがいと働きやすさを感じる学校づくり

(1) 家庭・地域への理解促進

- ① 家庭・地域に対する働き方改革の周知啓発

(2) 教育DXの推進

- ① 勤務服務・諸手当のシステマチック化検討
- ② 備品管理システムによる管理の効率化
- ③ デジタルを活用した問題行動対策やいじめ対策の強化
- ④ 統合型校務支援システムの運用
- ⑤ タブレット型端末のロケーションフリー化
- ⑥ 生成AIの効果的な活用
- ⑦ 就学援助申請のオンライン化
- ⑧ 学校給食費等WebO座振替受付サービスの導入・運用
- ⑨ 自動採点システムの導入
- ⑩ 各種報告書等の文書作成の自動化、効率化の検討

(3) 学校・教職員への過剰な要求への対応強化

- ① 浜松市カスタマーハラスメント対策基本方針に基づいた対応
- ② スクールロイヤルの配置
- ③ 学校問題解決に向けた体制強化
- ④ 学校電話機への通話録音、非通知拒否機能等の追加

(4) チーム学校の実現に向けた体制整備

- ① 多様な支援員、補助員の配置
- ② 校務アシスタントの配置
- ③ スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置・派遣
- ④ 部活動指導員の配置
- ⑤ 教頭アシスタントの配置
- ⑥ 若手教職員のサポート体制の構築

(5) 負担軽減・業務の効率化の推進

- ① 勤務時間を意識した登下校時間等の見直し
- ② 勤務時間外における電話の自動音声応答
- ③ 連絡アプリを活用した効果的・効率的な情報収集と発信
- ④ 多様な研修機会・形態の設定
- ⑤ 学校に対する調査・照会等の見直しと精選
- ⑥ 学校等への配布物の削減
- ⑦ 各種団体事務及び連絡調整体制の見直し
- ⑧ 学校事務の効率化・適正化による学校運営への参画促進
- ⑨ 学校給食費、学校徴収金に係る事務・徴収管理の見直し
- ⑩ 学校業務に関するマニュアル等の整備

(6) 学校施設等に係る管理の負担軽減

- ① 学校プール施設・設備管理の負担軽減
- ② 学校施設の施設形態スマート化
- ③ ICT機器等の保守・管理委託化
- ④ 学校施設における維持管理手法の検討
- ⑤ 学校開放事業のスマート化

(7) 柔軟な教育課程の編成や指導体制の充実

- ① 柔軟な教育課程の編成・実施に向けた検証
- ② はままつ式30人学級編成の実施
- ③ 小学校における教科担任制の拡充
- ④ チーム担任制の検証



II 教職員の心身の健康保持増進

(1) 安全衛生管理の徹底

- ① 健康診断・ストレスチェックの実施と分析
- ② セルフケア意識向上に向けた研修の実施
- ③ 公務災害の防止
- ④ 安全衛生管理体制の強化

(2) 柔軟な働き方と休暇取得の促進

- ① 年次休暇等の取得促進
- ② 男性育児休業の取得促進
- ③ 長期休業期間における学校閉庁日の実施
- ④ 産休・育休等代替職員の適切な配置
- ⑤ 時差勤務・在宅勤務の環境整備

(3) 相談体制の充実

- ① 産業医等による面接指導
- ② 多様な相談窓口の周知



III 多様な人材・主体との連携・協働

(1) 多様な人材・主体との連携・協働

- ① 学校運営協議会を活用した地域と学校の連携促進
- ② 地域学校協働活動による学校支援
- ③ はままつ人づくりネットワークセンターの充実
- ④ 保護者・地域・関係機関と連携した登下校の安全確保

(2) 部活動の地域展開の推進

- ① 部活動の地域展開の推進



HAPPY

